



## こいのぼりがいっぱいプロジェクト2021

2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年が経過しました。発生当時、全国に4600以上ある児童館は、被災地の子どもやその親に対して何か出来ることはないか？と模索していました。当時はそれぞれの地域児童館が、自分達の出来ることをそれぞれ行っていました。震災から1年が経過した2012年の春、国立総合児童センターこどもの城(平成27年2月閉館)が呼びかけを行い、全国の児童館が連携して行う東日本大震災復興支援事業「こいのぼりがいっぱいプロジェクト」が始まりました。

その後も毎年こどもの日が近づくと、全国の児童館では被災した子どもたちや全国の子どもたちに「みんなでゲンキに！」というメッセージを大空を泳ぐこいのぼりに託してきました。

新型コロナウイルスの感染拡大により社会が危機的な状況を迎えている昨今ですが、麻布子ども中高生プラザでは、子どもたちそして地域の方々に「みんなでゲンキに！がんばろう！」というメッセージをとどけるため、本村保育園・ありすいきいきプラザに協力をいただき、子どもの元気象徴であるこいのぼりを、5月31日まで館内外にたくさん掲揚するプロジェクトを実施しています。

新型コロナウイルスが収束し、みなさんがお互いに笑顔になれる日常を取り戻すまで、みんなでゲンキに！がんばりましょう！！

港区立 麻布子ども中高生プラザ